

銀賞

『理想のオペレーターとは？』

富士フイルムフォトマニュファクチャリング株式会社

石田 優太

「オペレーター＝機械を操作する人」、数年前までの私の中での固定概念でした。

以前、私は映画用フィルムを加工している職場で、フィルムを穿孔加工するオペレーター業務を行っていました。フィルムを穿孔する刃物の定期交換や、消耗部品の交換は、オペレーター自身が行っていたこともあり、自然と自主保全力を身につけていくことができました。しかし、自主保全の本質はというと、この時点ではまだ理解していませんでした。清掃点検時に、ただ汚れている個所を掃除している私に、先輩は「ただ汚れを落として綺麗にするのが清掃点検じゃないよ」とアドバイスをくれましたが、当時の私には先輩が言っている意味が良く分かりませんでした。

その後、私はインスタントフィルムを製造している職場へ異動することになりました。ある日の出来事、各種部材を貼り合わせる熱シーラーで温度異常が発生しました。故障の原因は熱シーラーを高温にするヒーターの断線でした。私はいつものように断線個所を圧着し直し、復旧させ稼働を再開させましたが、先輩から「この前もそこの圧着しなかった？なぜ断線したかを考えなきゃだめだよ」と言われました。この時の私は「発生源の追究は保全屋の仕事でしょ。復旧できたんだからいいじゃん。オペレーターは機械を動かすのが仕事でしょ。」という思いで一杯でした。

そんな自主保全の本質をあまり理解していなかった私に転機が訪れます。それは自主保全士 2 級の講習です。日常保全について講習を受けていた時のこと、以前先輩が言っていた「ただ汚れを落として綺麗にするのが清掃点検じゃないよ」という言葉がフラッシュバックしたのです。この時点でオペレーター歴 8 年、恥ずかしながら清掃点検の本来の目的をここでやっと理解した気がします。その後の講習でもオペレーター自身が故障の発生源を追究し真の原因を捉えるということが、稼働安定化へ繋げられる重要な近道であることにも気付かされました。

自主保全士 2 級の資格を取得後、「オペレーター＝設備の異常や弱点を見抜

く能力がある人」に考えが変わり、以前のようなヒーター断線時の故障にも、ただ圧着し直して問題解決ではなく、「配線を固定している位置が悪いから、熱シーラーが動作するタイミングで配線が引っ張られ、端子に負荷が掛っているんだ」と発生源を捉えることで、稼働安定化へ繋げることができました。保全部門の方の保全に対する考え方は的確で柔軟性に優れており、設備故障を直す力ではとても保全部門には太刀打ちできないと感じています。しかし、オペレーターにも保全部門に負けないオペレーター特有の情報をもっていることを自主保全士講習を通して知ることができました。

日頃から機械に接しているオペレーターは、機械のクセや弱点を誰よりも知っています。「この機械は、ここが汚れやすく故障を誘発するから、このポイントが汚れなければ故障を未然に防ぐことができるんだけど……。汚れを引き起こしている原因を探そう！」、「ここの部品壊れやすいね？いつ交換した？周期早まってない？」など例を挙げるとキリがありません。このように自分が担当する機械の特徴を見分けられるのが、オペレーターにとっての強みであり最大の武器だと思っています。

今後はこの武器を最大限に生かし、しっかりと保全を学び、私の理想である設備に強いオペレーターを目指して、より良いモノづくりをしていきます。